

勅使門

勅使門は釈迦堂に面しており、863年に寺院が設立され、その後数回再建され、最近では1830年に再建された。天皇の宮廷が京にあった794年から1868年の間、その使者が寺院に出入りする際に使用されたが、今日では勅使門はほとんど使用されていない。

御所の近くにあるため、京都の多くの大寺院は、皇室との意思疎通を容易にするために、勅使門を持っているか、持っていた。多くの勅使門は永観堂の門を含めて、「四脚門」であり、両側の壁にまたがって4本の柱で支えられた1階建ての構造になっている。中国風の門「唐門」とも呼ばれるこの様式の門は、入門屋造りでうねる軒（唐破風）を屋内と屋外の両方に備えている。

屋根は檜皮葺きで、ひさしは龍をイメージした唐草模様彫られている。門の両側の軒下には、一對の獏が簡素に彫刻されている。獏は悪夢や他の不運を追い払うと言われている神話上の生き物である。